

婚姻に至る経緯書

申請人 NOXXXXXAN000

妻（作成者） 山岡見栄

1 申請人 NOXXXXXAN000 の来日履歴について

現在、私の夫となった NOXXXXXAN000 の来日履歴は次のとおりです。

1 回目の来日は、2002年 月14日から2003年 月13日まで「研修」、2003年 月14日から2005年 月14日まで「特定活動（技能実習）」です。このときは、漁業についての研修・実習でした。外国人登録地は四国県海先市でした。

2 回目の来日は、「マルシップ」と呼ばれる漁船の乗組員として2005年 月××日にインドネシアを出航し、同月 ×日に日本に到着しました。このときは、漁船の乗員として正規の乗員手帳で日本に上陸しましたが、後に記すように、漁船から下船したまま船に戻らず不法に残留していました。

2 私と夫の出会い

私は、自宅のある四国県日の出町から比較的近くにある四国県海先市岬の「トム」と呼ばれる道の駅へ時々出掛けていました。ここは海の駅とも呼ばれていまして、イルカを飼っている公園としても人気のある場所です。私は、2004年 月×にも、この「トム」へ行き、イルカが泳ぐのを眺めていました。そこへ、海先市港に入港した漁船から降りて「トム」へ来ていたインドネシア人研修生の男性が声を掛けてきました。その男性が後に私の夫になった NOXXXXXAN000 でした（以下、「夫」と言います）。初めて夫に会った日の印象は、「優しいような、人の気持ちの良くわかる真面目そうな人だ」と思いました。夫のほうは、私のことを「綺麗な女性だな、一日も早く恋人になれないものかな」という気持ちだったそうです。この日、携帯電話番号の交換をして、電話とメールで色々話をするようになりました。そして、 月27日に同じ場所の「トム」で再会することを約束し

て交際が始まりました。この日にトムで撮影した写真がありますので、提出します。交際中、私は夫のことを、夫は私のことを、同様に「サヤン」と呼んでいました。「サヤン」とはインドネシア語で、「大事な人」「恋人」というような意味になります。それが現在では、「パパ」「ママ」と呼び合う関係になりました。

3 交際とプロポーズについて

このころ、夫の居住地は海先市でしたが、上記のように漁業実習生でしたから海先市に長く居られるわけではなく、1週間くらい停泊すると漁船で出航して、東北市塩釜港へ行ったり神西市難波港へ入港するなどを繰り返してしていました。夫とは、ときどき電話で連絡していました。04年 月7日付けで夫から手紙ももらいました（コピーを提出します）。ですが、入港のときしか会えないので、海先市以外では、05年2月に神西市難波港へ出向いて夫に会うこともありました。また、私の母誠子の従妹田中友美が海先市に住んでいたため、私と夫でその家に遊びに行ったこともありました。

夫の実習期限は、05年 月14日まででした。期限の1週間ほど前に夫の漁船が海先市に入港したので、前と同じように「トム」で会いました。そして、帰国期限間近の05年 月11日に夫が私の家へ遊びに来たとき、夫から「これを受け取ってくださいか？」と指輪の入った箱を差し出され、「結婚してください」とプロポーズを受けました。私は「私には子供もいるんですよ。こんな私で良ければ」と結婚を承諾しました。

お互いに近い将来の再会を誓い合い、夫はインドネシアへ帰国しました。

4 夫との再会と同居

インドネシアへ帰国した夫は、マグロ漁船の乗組員として働き始めました。夫の漁船はマルシップ方式と呼ばれ、もともと日本（海先市）の船ですが、乗組員はインドネシア人でした。私の感覚では、夫は日

本で研修を受けた身ですからインドネシアへ帰ればエリートなのではないかと思ったのですが、当時まだ22歳の若者だった夫は、先輩乗組員たちからあれこれイジメを受けたそうです。夫は実習が終わった年の05年 月 9日に「マルシップ」で海先市に到着しました。正規の乗員手帳で日本に上陸したのは上記のとおりです。

このとき、私は早速、海先市へ行き夫に会いましたが、間もなく夫は漁船に乗って出航しました。夫の船は、一度出航すると、およそ1ヶ月間は海の上です。そこで、たびたび先輩乗組員たちからイジメ受け、船長に言いつけて国に帰らせると言われたそうです。夫としては、インドネシアへ帰されるのは絶対に嫌だと思ったそうで、下船したまま隠れていて船に戻りませんでした。結局、夫は逃亡してしまっただけです。

そして、05年 月2日から私の住居である「四国県日の出郡日の出町山田1番地1」の町営住宅で同居するようになりました。このころ、夫は日本食とインドネシア料理の両方を食べていました。日本食は私が作っていましたが、夫の一番好きな日本食は焼き肉でした。調理が簡単なのは良いですが、夫と同じように食べていては太ってしまいます。夫は、とにかく体を動かすことが好きで、マラソンに付き合わされたりしましたが、なかなか追いついていくのが大変でした。

上記のように私と夫は実習生の当時に結婚の約束をした間柄でしたので、一緒に生活できて幸せでした。ただ、夫が逃亡して不法滞在者になってしまったこと、パスポートを船長に預けたまま持って来なかったこと、そして、結婚の手続きをどうしたら良いのか悩む日々でした。私は、06年 月 日付けでパスポートを取得し、いつでも結婚のためにインドネシアに渡航できるように準備しておきました。同じ06年の春には夫の子供を妊娠したことがわかり、結婚の書類を取得するため、東京にあるインドネシア大使館に出向くことになりました。

5 夫の摘発と帰国

私と夫は、06年 月8日に、それまで一緒に暮らしていた日の出

町の私の家を出て東京へ向かい、その日は、新宿区北新宿のホテルに宿泊しました。翌×日に在京インドネシア大使館で夫の婚姻要件具備証明書の発給申請をして、日の出町への帰宅途中で東京駅に立ち寄ったところ、警察官の職務質問を受け、パスポートを所持していないということで逮捕されてしまいました。夫は、東南警察署に勾留されて10日間の取調べを受けました。私は警察へ面会に行きましたが、夫が日本に残れる可能性はないと説明されました。そして、夫が拘束されてしまったので日本の役場へは婚姻届が出せないと思い、インドネシアで結婚を成立させようと考えました。一方、夫は、月×日に東南警察署から東京入管に収容されました。警察からの連絡を受けた船長が夫のパスポートを東京入管へ届けたそうです。夫は、月日に退去強制処分を受けて成田空港からインドネシアへ帰国しました。このとき、前にも記したように私は夫の子を妊娠しており、ほかに小さい子供2人を抱えて、この先、どうやって生きていけば良いのか途方にくれてしまいました。とにかく夫についていく覚悟でした。

6 インドネシアへの渡航と婚姻届

私は夫との結婚の手続をしに東京へ出向いてきて、夫を検挙されてしまいました。しかし、夫と一生を過ごす気持ちにいささかも変わりはありませんでした。夫が、06年月××日に成田空港からインドネシアへ強制退去になることがわかったので、私も夫に同行してインドネシアへ渡航しました。この際、日本から戸籍謄本を持参して在ジャカルタ総領事館から婚姻要件具備証明書を交付してもらい、06年月×2日付けでインドネシア式の婚姻を成立させました。

夫は、インドネシア人の中でもイスラム教ですから、結婚儀式というのは、婚姻証明書（結婚手帳）の作成とイスラム教への改宗、イスラム式結婚の儀式を行います。この手続を行ったのは、市××町役場というところですが、ここの官吏が、婚姻証明書とイスラム入信、結婚の儀式を全部やってくれました。夫の父は06年に他界し母は車椅子の生活をしているので、出席者は兄姉妹らでした。このときの

写真を提出します。また、儀式後、私たち夫婦と親族が夫の自宅へ集まり、家族全部が私たちの結婚を祝福してくれました。このときは夫の母も出席しています。なお、イスラムの風習については、それほどビックリすることもなく、イスラムの衣装もあまり違和感を覚えませんでした。夫が結婚式の朝にシルバーのネックレスをプレゼントしてくれました。勤務先の近くのお店で買ったもので、日本円にすると500円くらいだというのですが、価格の問題ではないのです。結婚までにすごく苦労しましたから、ただただ結婚できることが嬉しく、プレゼントをもらえただけですごく感激したのを覚えています。

7 長女の出産とインドネシアへ2度目の渡航

私は、06年 月の渡航から帰国して、同年××月に夫との間の長女マリアを出産しました。マリアが生まれるとき、夫は遠く離れていて、子供と会うことも見ることも出来ませんでした。国際電話でマリアの泣き声を聞かせることくらいしか出来ませんでした。

そこで、何とかマリアを夫に会わせてあげたいと思い、08年 月に私とマリアの2人で、インドネシアへ渡航しました。このときが、夫とマリアの初対面でした。夫は、いつもはマリアに会えない分、マリアのすべてを自分の目で見て、自分の手で触り、できる限りの愛情を尽くしてくれました。

8 インドネシアへ3度目の渡航

3回目の渡航は、08年××月になりました。このときも、マリアを同行しました。目的は、とにかく夫に会うこと、マリアを夫に合わせることで、そして、夫の母があまり体調が良くないらしいので見舞いをするのでした。

私がインドネシアへ渡航すると、夫と一緒にバリ島へ観光に行ったり、水族館に連れて行ってもらったり、「紅茶の葉っぱ」を育てる山に登ったり、デパートへ買い物に行ったりしました。モスクへイスラムのお祈りに同行したこともあります。私は、夫が日本にいたころに

もインドネシア料理を食べたことがありましたから食生活も別段つらくはなく、インドネシア料理の中では「ナシゴレン」という焼き飯などは美味しく食べられます。

マリアはまだ小さいですが、どんなに離れ離れになっても夫のことを「パパ」だと思いう意識を強く持っています。私とマリアは日本に帰国しなければなりません。帰国後、マリアがパパを探す素振りを見せるたび、子供の心を痛々しく感じて涙がこぼれてしまいます。

9 国際電話について

夫とは離れ離れに暮らしている期間が長いですが、いつも私から国際電話を掛けて連絡を取り合っています。私が使っているのはカード式のものですが、いわゆるプリペイドカードではありません。1枚のカードを何度でも使用し、コンビニで通話料を入金する形式です。質問書にも書きましたが、夫には日本での研修・実習期間がありますので、日本語は十分に習得済みです。私との間で、日本語での意思疎通ができないことはほとんどありません。国際電話カードのコピーとコンビニの領収証を提出します。

10 前婚について

私には、マリアの上に2人の娘がいます。最初の夫・上田泰一とは9×年に16歳で結婚したのですが、上田の収入が安定せず、生活費が賄えないばかりか、夜遊びが過ぎてほとんど家に居ない状態だったことから1年半で離婚に至りました。そして、離婚後に、最初の娘・アヤを妊娠していることがわかったのですが、子供に罪はないと思い私1人で出産しました。

2番目の娘・ルミの父親とは2000年に知り合ったのですが、この人は事業に失敗して倒産し、行方をくらませてしまいました。後になって妊娠しているわかり、中絶も考えましたが、やはり子供には罪がないと思って出産しました。

11 日本側親族について

上の2人の娘・アヤ、ルミとも、夫のことをパパと呼んでいます。2人とも夫が日本にいるときから一緒に暮らしていたので懐いているのです。夫もマリアと同様に上の2人の娘を可愛がってくれています。私の父母は離婚して別々に暮らしていますが、父母とも、私と夫の結婚を応援してくれています。後に記しますように、父も生活面の面倒を見ると言ってくれています。2人の兄も、夫が1日も早く日本に戻るよう望んでくれています。私の親族は揃って、私と3人の娘、そして夫が、早く一緒に暮らせるようにと、いつも願ってくれています。

私は、上記のように、06年6月にインドネシアで夫との間の婚姻手続きしてきたのですが、日本側への婚姻報告が未了でした。また、マリアの出生届についても父欄を空欄で提出したままでした。私には、国際結婚についての届出方法が良くわからなかったので2年も放置する結果となってしまったのです。そこで、08年8月になって、専門家のアドバイスを受け、夫との婚姻事実とマリアの父についての日本側届出を完了しました。

12 生計面について

現在私は、3人の娘を抱えて暮らしているため、児童扶養手当の受給を受けて生計を立てています。よって、児童扶養手当証書を提出します。このような次第で生計に余裕はないのですが、夫が来日できたとしても直ぐに就職できるかどうかわかりませんし、まだ、就職先の見込みも立っていません。そこで、来日直後は、私の父・重雄に生計面を補助してもらうことになり、父から夫の身元保証書を交付してもらいました。よって、本申請は、夫は、私の父・重雄の扶養を受けるものとして提出させていただきたく思います。

13 夫の退去強制歴と嘆願

夫には、2006年 月の退去強制歴があり、なかなか来日が難しいと聞いています。

しかし、私には夫との間の子・マリアのほか、日本人男性との間に生まれた娘が2人あり、私が親権者として監護養育に当たっています。2人とも既に公立小学校へ通学しており、私と共にインドネシアへ移住することは不可能です。

以上のような次第で、私と夫そしてマリアら子供たちが一緒に暮らせるように、特段のご配慮をもって夫の入国をお認め下さるよう伏してお願いする次第です。

(以上)